

第6回講義 2007年11月26日(月)

「容器包装リサイクル法とPETボトルリサイクル」

平尾雅彦先生(東京大学工学部化学システム工学科) / 一回目

講義要約



PETボトルが原料から製造され、消費、回収、リサイクルされるまでの流れをライフサイクルと呼び、その全体としてPETボトルリサイクルが環境に対してどのくらい負荷を軽減するのかを評価していく手法LCA(ライフサイクルアセスメント)がある。LCAは、ただ物質の量的変化にのみ注目するのではなく、リサイクルや運搬などにもエネルギーが必要なことに注意する必要がある。

PETボトルのリサイクルには、PET_to_PETのクローズドリサイクルとPETから別のものができるオープンループリサイクルがあるが、LCAによってどのリサイクル方法が、どの程度の効果をもつのかを定量的に評価することができる。

現在の容り法は費用負担のことしか決めていないので問題がある。さらに、PET樹脂の中国への流出など、容り法は複雑な問題をはらんできている。